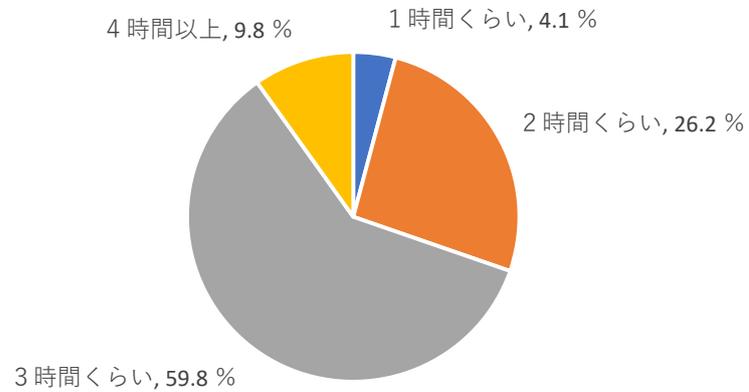


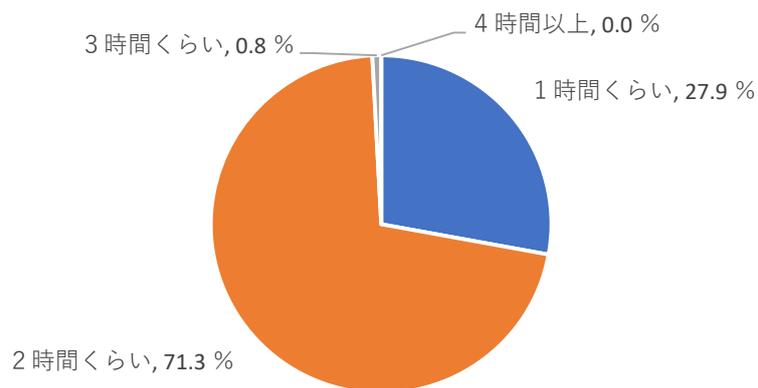
教職員

◇教職員数（常勤のみ、管理職含む）137名 ◇回答数 122名 回答率 89.1%

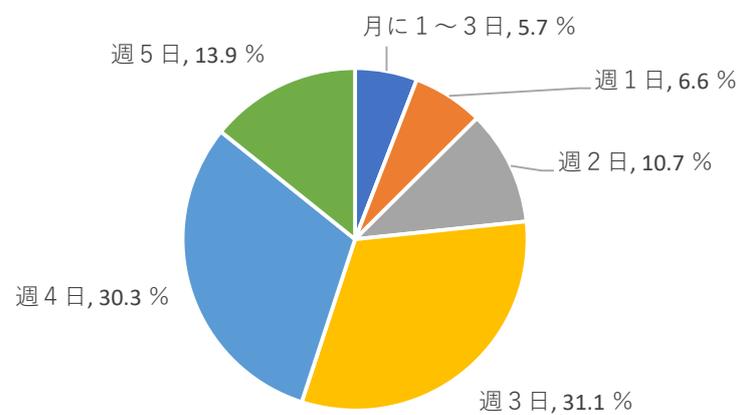
質問3 休日の地域クラブの活動はどれくらいの時間がよいか



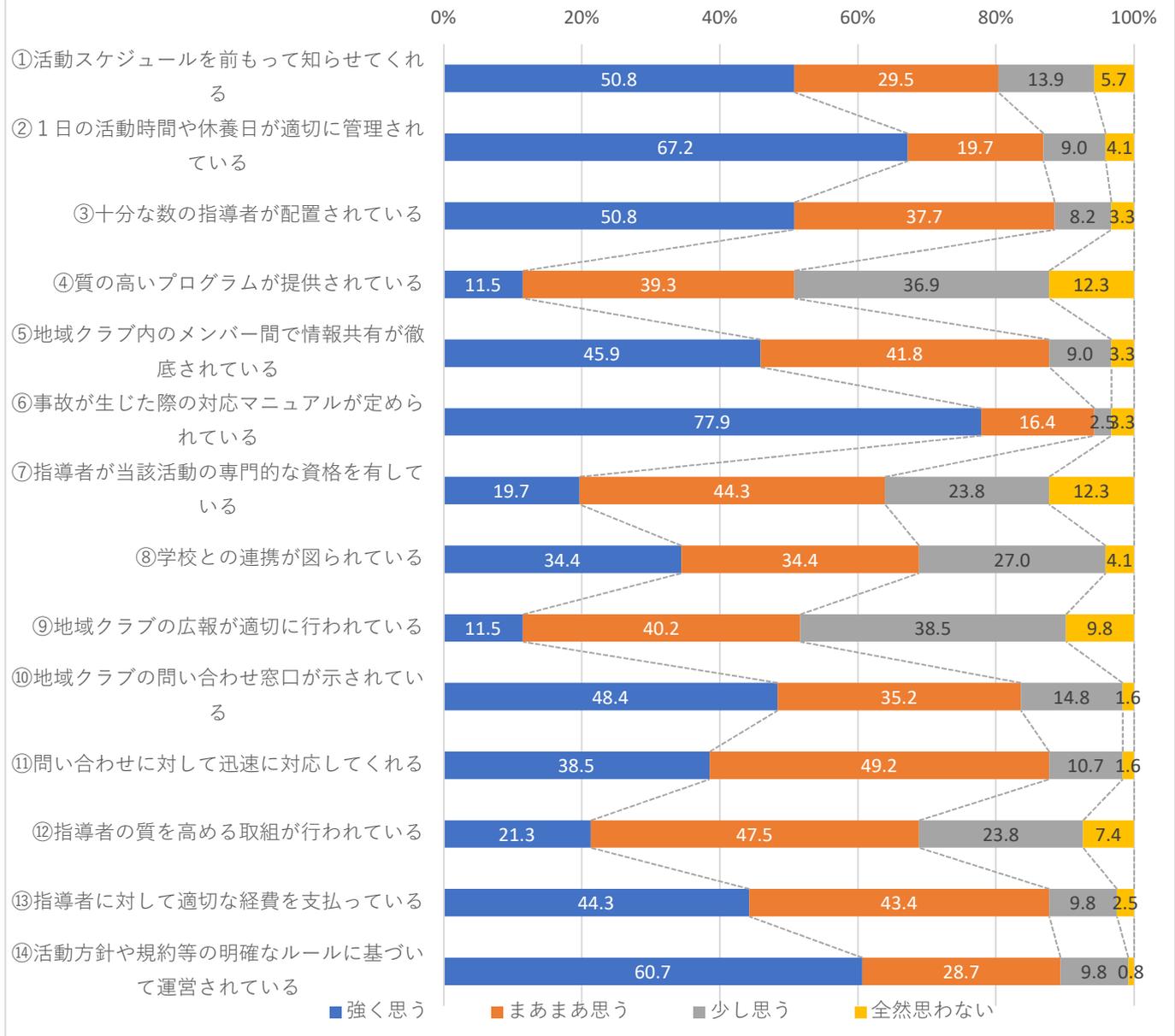
質問4 平日の地域クラブの活動はどれくらいの時間がよいか



質問5 地域クラブの活動日数はどれくらいがよいか



質問6 運営で大切にしてほしいことの度合い

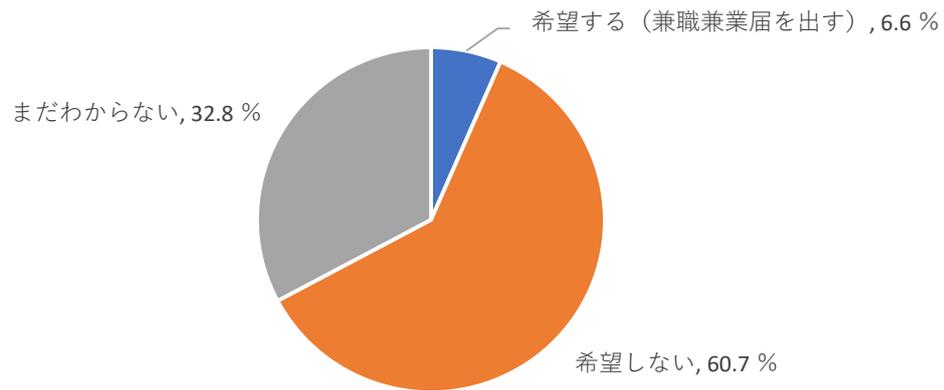


質問6 - ⑮他に考えられること

- ・技術向上だけでなく、礼儀・思いやり・社会性などの人格形成を重視した指導を望む。
- ・勝利至上主義に偏らず、子どもが安心して活動できる居場所としての部活動・地域クラブを求める。
- ・活動時間は平日2時間、休日4時間までなど、健康面に配慮した適正な運営。
- ・指導者には体罰・性暴力・パワハラ防止の研修を義務化し、適切な接し方を徹底してほしい。
- ・生徒理解に基づいた指導ができるよう、教育的な研修の実施を望む。
- ・SNSでの不適切な発信や学校批判の防止、トラブル時の責任の所在の明確化が必要。
- ・地域クラブと学校教育活動は明確に分けるべき。曖昧な関与はトラブルの元になる。しかし、生徒個人の情報共有や進路指導など、学校との連携が必要な場面もある。
- ・地域クラブ活動に関わる教員の負担を減らすため、専門的なサポート体制の導入が望まれる。
- ・月謝が発生する場合は、質の高い指導が求められ、保護者からの要望も増える可能性があるため、方針の明確化が必要。
- ・生徒の安全を最優先に考えた運営、暴力・性加害の防止、適切な対応体制の整備が必要。
- ・教育委員会などにトラブル対応の窓口を設け、教員が直接対応しなくても済む仕組みを望む。

質問7

地域クラブができたとき、指導を希望するかどうか



質問8 何の競技を希望するか

サッカー	2名
吹奏楽	1名
バスケットボール	2名
軟式野球	2名
(選択なし)	1名

質問9 謝金の額として、どれくらいの時間給があればよいか

1時間当たり	合計(人)
0~200円	0
201~400円	0
401~600円	0
601~800円	0
801~1,000円	1
1,001~1,200円	1
1,201~1,400円	1
1,401~1,600円	3
1,601~1,800円	6
1,801~2,000円	2
2,001~2,200円	5
2,201~2,400円	1
2,401~2,600円	1
2,601~2,800円	0
2,801~3,000円	3
(選択なし)	98

※部活指導員は1670円/時間

質問10－①指導者の量の確保についての意見

- ・指導者確保には適正な謝金・報酬の提示が不可欠。
- ・労働時間の明確化と残業への対価支払いなど、待遇の透明化と制度設計が求められる。
- ・初任教員の給与引き上げと同様に、地域指導者にも予算を回すべき。
- ・地域住民・保護者・退職教員・スポーツ経験者・大学生・高校生など、多様な人材を活用。
- ・学校メール・ポスター・回覧板などを使って広く募集をかける。
- ・指導希望者向けの研修会や講習会の実施が必要。
- ・指導者登録制度（講師登録のような仕組み）の導入。
- ・地域クラブ・スポ少・大学・高校などとの連携強化が重要。
- ・教員が指導者となる場合は兼職兼業の承認と報酬制度の整備が必要。
- ・市町村単位ではなく、県や国レベルでの支援体制の構築を望む。
- ・指導者・生徒ともに保険加入や事故対応の体制整備が必要。
- ・活動場所の確保や事務手続きの簡略化。
- ・指導者が安心して活動できるよう、制度的・物理的な環境整備が重要。
- ・平日夕方（16時以降）に指導できる人材は限られるため、活動時間の工夫が必要。
- ・休日に出にくい人や企業勤めの人にも配慮した柔軟な運営体制。

質問10－②持続可能な収支構造の構築についての意見

- ・生徒から参加費や部費を徴収することで、活動費を安定的に確保。
- ・保護者からの集金は、設備が学校のものであれば謝礼などに充てる形で合理的。
- ・経済的に困難な家庭には審査を経て補助を行うなど、配慮が必要。
- ・国・県・市などの自治体からの補助金や予算計上が不可欠。
- ・地域クラブの規模や活動内容に応じて、行政が柔軟に補助する仕組みを望む。
- ・教育後援会の資金や自治体の支援を制度的に組み込むこと。
- ・企業スポンサーの募集により、財源の多様化を図る。
- ・地域の企業や団体と連携し、持続可能な資金調達モデルを構築する。
- ・指導者への謝金や報酬の支払いを前提とした収支構造が必要。
- ・複数人での指導体制を整え、負担を分散させる工夫も重要。
- ・既存のクラブチームを地域クラブとして活用することで、新設よりも効率的な運営が可能。
- ・学校主体の部活動が持続不可能である現状を踏まえ、地域クラブへの移行に予算をつけて支援する必要
- ・教員のボランティアに頼る従来の部活動の在り方は限界。

質問10－③保護者生徒の普及啓発・理解(参加費用負担への理解含む)についての意見

- ・学校での用紙配布や説明会の開催により、保護者・生徒への周知を図る。
- ・定期的な説明会や体験会を通じて、参加への不安や疑問を解消。
- ・動画配信や情報サイトの活用など、オンラインでの情報提供も有効。
- ・湖南市として、部活動を学校に残すのか地域に移行するのか、明確な方針の提示が必要。
- ・青森県むつ市のように、市が積極的に支援する姿勢（例：専用バスの運行）を示すことで、地域展開の理解が進む。
- ・参加費は運営に必要な額を適切に徴収し、常識的な範囲であれば問題なし。

- ・経済的負担を軽減するため、自治体からの補助金支出を望む。
- ・塾と同様に受益者負担を基本としつつ、国・県の予算から補助を行う制度設計が必要。
- ・備品・交通費・大会費などの費用を事前に明示し、保護者・生徒が安心して参加できるようにする。
- ・スポーツ保険などへの加入を推奨し、安全面での不安を軽減。
- ・加入制度が整っていれば、参加者増加につながる可能性がある。
- ・自治体や教育委員会が主体的に啓発・理解促進を行うことが重要。
- ・学校に責任を丸投げせず、行政が責任を持って制度設計・運営支援を行うべき。

質問10－④自治体・学校と運営団体・実施団体の連携体制の構築についての意見

- ・生徒がクラブチームに所属しながら学校の部活動にも参加している状況は、運営上の混乱を招いている。
- ・試合出場や応援の場面で、中体連や県専門部の方針の違いがあり、現場での対応が難しい。
- ・保護者（クラブ代表者）との練習試合などの調整に理解を得るのが困難な場面もある。
- ・部活動への参加は学校裁量であるが、明確なルールの整備が必要。
- ・中体連が大会運営や部活動の今後の方針を明示すべき。
- ・過渡期を経て、学校とクラブチームを完全に分離した組織化が望ましい。
- ・地域クラブの設立にあたっては、運営主体・役割分担・活動時間の明示が不可欠。
- ・平日・休日に活動する新しいクラブの形として、部活動の代替となるビジョンの提示が必要。
- ・現存のクラブチームのように、学校から完全に切り離された形も一つの選択肢。
- ・学校とクラブの定期的な情報共有の機会を設けることで、指導者間の理解を深める。
- ・学校との連携は重要だが、教職員の負担増にならないよう配慮が必要。
- ・最終的に学校にすべてを依存する体制ではなく、クラブ側の自立した運営を求める。